



バイクのパーツから世界へ

びとう じょう
美藤 定 さん
(豊岡市)



BITO R&Dが開発したマグネシウム鍛造ホイール「マグ鍛」。他にも世界初のチタン製マフラーなど世界トップクラスの技術を誇る製品を次々と発表している。

バイクパーツメーカー「BITO R&D」社長 美藤定さんは、日本のバイク界の草分け「エンジンチューニングの神様」と呼ばれたヨシムラR&Dの故吉村秀雄氏と出会い、バイクのメカックとして修行を積みました。その後、アメリカホンダのメカックとしてバイクのF1ワールドグランプリ(GP)に参戦、世界一のスピードをめざしたという経歴の持ち主。

1983年、レースの世界から身をひき、故郷の豊岡市に現在の会社を設立。3年前、世界初のマグネシウム鍛造ホイール「マグ鍛」を完成させました。普通ホイールは鍛造して造るのが一般的ですが、刀鍛冶のようにたたいて鍛える方法を導入することで、軽くても粘りがある強いホイールが誕生。国内バイクメーカーが所有するレースチームはもとより、外国のチームのバイクにも採用されています。

「僕は勉強もできない、走るのも遅い。何にもできない子供でした。でも、単身アメリカへ渡り、たくさんの人たちと出会うことで人生が変わりました。何にもない人生だと思っていたけれど、それは言い訳に過ぎなかったんです。やればできる。頑張った人には頑張っただけのことが返ってくるという、可能性が高くなる。誰にも平等にチャンスは巡ってくるんだとわかってから、自分自身が変わりましたね。複雑に見える

る人生も実はとてもシンプルなんです」と美藤さん。その言葉に世界の第一線で活躍して得た自信を感じました。今年の世界GP第一戦、鈴鹿で美藤さんのホイールを使用したバイクが2位に入賞。8月におこなわれた鈴鹿耐久8時間レースにも多数参加しました。

「大きなレーシングチームであってもエンジンパーツ、ブレーキ、サスペンション、ホイール、タイヤなど、それぞれの専門メーカーに部品を頼んでいます。どんな材料でどんなデザインにしようか、より高度な想像力と発想力が良いパーツを造るために必要になります。わからないことやうまくいかないこともいっぱいあるんですが、そこがモノを造る人間としては楽しいところでもあるんです」

山をすそ野から一歩一歩登っていくと見える景色が変わってきて、上に行くほどに新しい風景が見えてくる。自分の知らない世界を見ることができる。こんなに楽しいことはない」と美藤さんはいいます。

「GPにパーツ参加する夢はかなったんで、今度は優勝をめざします。世界のチームに良い製品を供給していきますよ。そののためにも生産能力をあげることを目標です」

豊岡から世界を見据えて生きる美藤さんは、頂点を向かってあくなき挑戦を続けています。

豊岡店

豊岡市中陰589-1

TEL0796-24-9595

八鹿店

八鹿町下小田103-1

TEL079-662-6200

和田山店

和田山町土田339-5

TEL079-670-2525

営業時間 PM5:00 ~ AM0:00



(株)スタミナフードサービス 本部 豊岡市中陰589-1 TEL0796-24-8121



ケヤキの巨木にかけられたお網。このあとは自然に朽ちるままにしておく(写真は4月下旬ごろ)

まの 伝説

網引きで豊作を祈願する「別宮のお網打ち」 江戸時代から続く当番役、丘陵に響く住民の関の声。

年の初めに網引きをして、豊作、火の用心、厄除けなどを祈願する、別宮のお網打ちとは、鉢伏山山腹の別宮地区にある八幡神社の祭礼で、古くからのしきたりを今も守り続けている。

この行事は、「お当」ともいわれ、集落内の約50軒が順番にその年の「当番」をつとめる。新年を迎えたばかりの1月6日に、まずはお供え用の鏡もちと粟もちをつき、お飾り用の八世の木弓矢、御幣、着などを準備。

お網打ち当日、1月9日の朝、神社前の作業所に各家から新ワラを持ち寄って、お網打ちが始まる。「ヨイサーッ」のかけ声に合わせ、男性3人が3本のワラ束に燃りをかけながら廻って、天井から吊した網を打ち上げていく。直径約30センチ、長さ17〜18メートル、重さ80〜90キロにもなる大網づくり。交替しながら、大の男20数人が汗を流す気迫の作業が約2時間も続く。お網は籠をかたどったともいわれ、水の神である籠に火伏せの意を込めたとも考えられている。

完成したお網は、祭壇に供えて一同で豊作や家内安全を祈願したあと、集落中央の「お網屋敷」と呼ばれる広場へかついで運び、網引きが始まる。

50人余りの住民が上地区と下地区に分かれ、はく息も白く、降り積もった雪を踏みしめて、「ヨイシヨイシヨイシヨ」と大網を引き合つ。上地区が勝てば豊作とされているので、行司役の采配によって、最初に上が勝つたあと交替で勝つように勝負をつけ、最終的に4対3で上地区が勝利する。これで豊作が約束されるというわけだ。

続いて、村中を一望する「カンザキの岡」という場所にお網を運び、そこにそびえるケヤキの巨木2本に、しめ縄のように張り渡す。お網には御幣を飾り、カリマタと呼ばれる田の方向(北西)に向けて弓矢を立てる。一方、網を張る間に、当番は紋付き羽織袴で、次の年の当番の家にあいさつに行き、2人で八幡神社の近くにある山王神社に御幣と着を供えて待機。

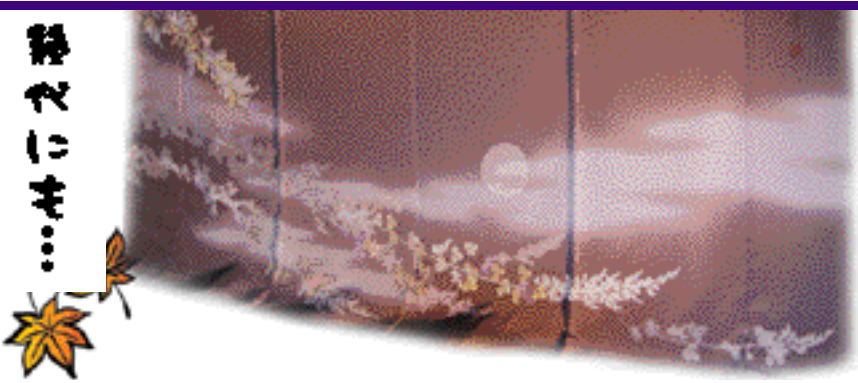
さて、網が張り終わると、全員が山王神社の方向を向いて立ち、神社にいる新旧の当番と向かい合う形をとる。まずカンザキの岡から「ウオーツ」と関の声をあげると、神社側の当番が「ウオーツ」と答える。集落中に響くこの掛け合いを3回繰り返して、お網打ちの行事が終了。

このあと、別宮の集落へ入る道の入り口に魔除けの御幣が立てられ、村人は公民館に集まって、お供えのもちや煮しめ、ちくわなどを肴に酒をくみ交わして新年を祝う。

嘉永4年(1851年)以来の記録を綴ったお当帳に、それ以前のお網打ちの記述があることから、150年以上続いているのは確実で、行事内容もほぼ同じ。昔は当番の家でお網を打ち、女性が関わることを禁じていたが、今は村の作業場を利用し、女性も手伝ったり網引きにも加わる。それでもこれだけ忠実に昔通りのしきたりを守っている祭は珍しいに違いない。

平成4年、町の無形文化財に指定されている。

協力：別宮区長 西谷弘之さん



あなたの秋をプロデュース

まののこことな
まののサハンけいたに
 ●お餅作り教室 ●まののマネー教室
 ●まののトータルコーディネート

星岡市福田1647-1 電話 24-9239
 フリーダイヤル 0120-529-008